



勝池レポート      アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫  
「宮本武蔵と資産運用」



今回は、史上最も有名な剣豪、宮本武蔵の言葉を再度ご紹介します。13歳からの60回余りの勝負で無敗だった武蔵の敵の見方が、資産運用で投資先市場や企業を選別する上での参考になります。

◎ 宮本武蔵      江戸時代初期の剣豪 1584～1645 年  
    (五輪書 水之巻「兵法の目付と云事」より)

**「眼の付け様は、大きく広く付けるなり。観見の二つあり、観の目つよく、見の目よわく、遠き所を近く見、近き所を遠く見ること、兵法の専なり。敵の太刀を知り、聊かも敵の太刀を見ずと云事、兵法の大事なり。工夫あるべし。」**

前半の一節は、経済、企業を表面的に見るのではなく、広い視野(距離と時間)で観察する事が大変重要だと言っているようです。続く後半は、株価の動きに眼を奪われないで、その国の経済や企業のビジネスの本質、ファンダメンタルズ(敵の場合は生き立ち、流派、能力、武器、心理等か)を見極めなさいと指南している気がします。

また、これは五輪書にはありませんが、武蔵は敵との対戦の前にその戦場に何度も出向いて、地形や太陽の方向等の情報収集を入念に行ったようです。更に、負けそうな相手とは勝負しなかったと言う人もいます。

このような武蔵の周到な考え方は、史上最も偉大な投資家と言われるアメリカのウォーレン・バフェットの基本的な投資哲学に似ています。すなわち、投資先の安全マージン(Margin of Safety)を見極め、リスク度を理解してから、それが許容できる企業にのみ投資を決めるというものです。

そう考えると、巖流島の決闘で武蔵が舟の櫂(かい)を削って小次郎の「物干し竿」よりも長い木刀を使ったのも、自分の武器に安全マージンを付与するためだったのかも知れませんね。武蔵は、勝負に勝つというより、如何にしたら負けないかを論理的に突き詰めたようです。

因みに、バフェットの投資手法は「バリュエーション投資」です。一方、武蔵の兵法は「二天一流」です。やはり偉大な人物は自分のスタイルを持っていますね。

もちろん、投資と決闘は違います。しかし、お金とそれよりも大切な命の運用に真剣に向き合った時、負けずに勝ち続ける極意はやはり対象を大きく広く「観る」こと、そして上辺の動きに惑わされずその「本質」を捉えることの様です。

五輪書は、” The Book of Five Rings” という題で英文に訳され、米国のハーバード・ビジネススクールの経営学のテキストとして活用されています。どんな困難な状況においても勝ち抜く、究極の現実主義者と言われる武蔵の剣術の奥義をまとめたこの兵法書は、米国の企業経営にも参考になったのですね。

